

平成16年(2004年)3月20日発行

より開かれた学長を目指す

柳澤新学長

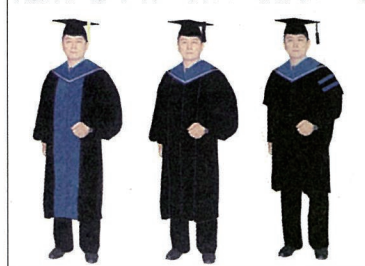
学生代表と第1回懇親昼食会を開催

柳澤新学長は、学生代表との昼食会を1月30日(金)開催し、「開かれた学長」を目指す方針を明らかにした。同懇親会には、学生代表として中央執行委員長・後藤勇輝君、大学祭実行委員長・森田直樹君以下7名(詳細は別表の通り)が参加、なごやかな会合が持たれた。学長のこうした考え方に対して、学生達は大きな期待を示し、彼らが取り組む自治会活動に対して、さらに意欲が湧いてきたと述べている。

学長の歴史的思い出話
私は、大学開設2年目に助手で就職しましたが、その頃は、学生と良く遊んだね。近所の川にどじょうを釣りに行って、鍋にして食べた。初めて学園祭を開催したのも私です。今も大学祭の初日に仮装行列をやっているけど、鞍馬天狗の仮装行列をして、駅の前でチャンバラをやったりね。後で八百屋のおじさんがみかんを一箱届けてくれたなあ。仮装行列の衣装は、学内に出入りしている掃除のおばさんや近所の農家から借りてね。

学長の励ましの言葉と学生の感想
第1回昼食会は、学生も多少固くなっており、学長の話を一方的に聞くことが多かったが、学長は、参加した学生達に「奉仕の精神がなければ自治会活動は出来ない。奉仕の精神を持っていることは人間として素晴らしいことです。どうぞ今後も頑張ってください」と励ましの言葉を贈った。また、この様な会合をしばしば開催して、学生の意見や要望を取り入れた開かれた大学を目指す方向性を示した。なお、出席した主な学生の感想と学長への希望・期待の一部を紹介する。

●後藤君 柳澤学長は身近に感じる。今度は自治会の本年度より、学位記授与式に学長、学科主任、卒業生代表等はガウンを着用することになった。学部卒業生及び博士前期課程修了者は各学科・専攻総代のみ、博士後期課程修了者は各人が着用する。



ガウンのデザインは、左から学長、学科主任、卒業生(左袖ライン2本が博士後期課程修了者、1本は前期課程修了者。学部はライン無し)

卒業式にガウン着用



前列左から石原君、成嶋君、柳澤学長、後藤君、森田君
後列左から吉田君、梁瀬君、石戸君、小野君、山本君

昼食会では、新学長が出席した学生一人ひとりに、現在の自治会での活動や所属学科、今後の進路についての考え方を聞いた。その後、学長が本学に就職した昭和43年からの思い出話を述べ、今後開かれた学長として、明るく楽しく魅力ある本学づくりに取り組む姿勢を明確にした。学長の話は、次の通り。

学長・学生代表昼食会出席者

学生自治会役職	氏名	所属学科・学年	出身高校
中央執行委員会委員長、学生環境推進委員会委員長	後藤 勇輝	システム・3年	狭山工業
大学祭実行委員会委員長	森田 直樹	情報・2年	開智(埼玉県)
体育祭実行委員会委員長	石原 広樹	機械・3年	東京工業
卒業アルバム委員会委員長	梁瀬 達也	建築・3年	豊橋工業
学生生活向上委員会委員長	小野 啓太郎	情報・3年	宮城県工業
体育会会長	成嶋 光	情報・3年	葦崎工業
文化団体連合会会長	石戸 誠之	機械・3年	足利工業
大学祭実行委員会前委員長	吉田 純	機械・3年	米谷工業(宮城県)
中央執行委員会委員長補佐	山本 健太	システム・2年	東京工業



開学時の校舎、まわりには畑が広がっていた

●梁瀬君 大学祭や夏祭を始めたのが学長と一緒だったので、是非、現在の大学祭や夏祭を見て、アドバイスをいただきたい。

学位記取得おめでとう

卒業生に贈る

3つの大いなる宝を大切に

大切に

学部生、院生の皆さん、卒業おめでとうございます。卒業に際し、「諸君は3つの大いなる宝を持っている」ということを申し上げ、門出の言葉と致したいと思います。まず、諸君の第1の宝は「誠実さ」であります。日本工業大学の学生諸君はまじめである、誠実であるということは、本学の先生方

のみなさん、本学に関係する全ての方々が等しく認めておられることとあります。これは、諸君の持つて生まれたものかもしれませんが、あるいは御両親、御家族の影響によるものかもしれません。この評価は何よりも諸君が誠実に生きてこられた証(あかし)であると、私は思っております。この誠実さを一生大切にしてください。

諸君の第2の宝は、諸君の持つ実学マインド、ものづくりマインドであります。諸君は、ものづくりマインドを年少少女の頃から育ててこられました。あるいは、諸君はそのことの重要性にあまり気がついていないかもしれませんが、しかし、諸君が新たな船出に際し、自分は何者であろうとしていくのか。充分に手懸えを感じておられるのかを考えた時、あるいは、大学以外の小学校、中学校時代の友人達と、その生き方を比較した時、諸君が育んできたものづくりマインドこそが、自分の重要なアイデンティティの一つであることに気がつくはずです。ものづくりというのは、いい加減な態度では成功せず、丁寧な仕事をしてこそ成果が上がるものです。先に述べた君達

の点検を行いました。その一環として、本学卒業生諸君に、大学卒業後、社会に出た時の本学教育に対するアンケートを行いました。その中の1つに本学の卒業生諸君は技術的能力、たとえば設計であるとか、開発能力であるとかについては、他大学出身の同僚より優れた能力をもっていると感じているという調査結果が出ています。本学で学んだ技術・学問について自信を持って大きく飛躍してほしいと思っています。



学長 柳澤 章

「生涯学習」を通じて今後とも向上を

今後とも向上を



理事長 大川 陽康

本日晴れて学位を取得された学部並びに大学院の学生諸君、おめでとうございませう。明日から諸君は、実社会へとその第一歩を踏み出します。報道によれば、景気は回復の兆しを見せているとはいっても、日本の社会は相変わらず深い混乱から抜け出せないでいる、というのが実感です。それゆえ、

本日は晴れて学位を取得された学部並びに大学院の学生諸君、おめでとうございませう。明日から諸君は、実社会へとその第一歩を踏み出します。報道によれば、景気は回復の兆しを見せているとはいっても、日本の社会は相変わらず深い混乱から抜け出せないでいる、というのが実感です。それゆえ、

日本は今まで国際的な視野に立って考え方をしえて来なかったのです。諸君は、これから製造業を中心とした現場で、自ら得意なものを作るに努めます。国際社会の中で日本の「モノづくり」産業が盛んにならないければ、我が国の経済は安定にたつていかないのです。本日、学位記授与式を迎えるに

あたり、諸君が本学で学んできた知識や技術は、現在の状況の中で充分通用するものと信じます。しかし、同時に、私は諸君が学んできた知識や技術を、今後とも自らスキルアップ、あるいはキャリアアップして欲しいと願っています。国際的な視野に立つ技術者となるために、これからは「生涯学習」が必要にして不可欠になるだろうと、私は考えているのです。

機械工学科

平成
十五年
度

卒業生一覽

3月20日付
確定者

電気電子工学科

建築学科

システム工学科

同期の桜の諸君に

神馬 敬（前学長）

卒業生諸君おめでとう。ご家族様にも心からお祝を申し上げる。私も三月末に退職するので諸君と同期卒業と思っている。昨年末の学長任期満了日には学生自治会から花束を頂き、大学職員や卒業生、後援会OBからもたくさんのお花を頂戴して華やいた自宅で新年を迎えることができたことをあらためて感謝する。

在任中、本学の学生はすばらしいと感動した出来事が何回もあった。学園創立九十周年記念行事表彰式の記念歌の大演奏は日工大生の多彩な



才能とエネルギーが現れたものと頼もしかった。また、五月の体育祭が前夜遅くまで土砂降りの雨で、挙行を危ぶまれたことが二回あったが、実行委員の学生たちが早朝から窪みに溜まった水をスポンジで吸い取り、グラウンドを整備し、日中は薄曇りの良い日和となつて無事に体育祭を終えたこともあった。

この話は続きがあつて、体育祭の片付けが終わつた後、激しい雷雨がキャンパスを襲い、近県では雹が降り、農作物に被害がでた。実行委員の熱意に天も感じたと思いたい。後援会支部の記念誌の日本一短い手紙の欄に掲載された「埼玉県の名前を聞く」とい振り向く癖がついた」にも感動した。その年度の卒業式の告辞に引用し、厳しい経済情勢の中でいつも子供のことを思ってい

る親心に感謝して、恩返しをしなければならぬと述べた。一番良い恩返しは、諸君がこれからの人生に真剣に取り組むこと、健康に氣を付けること、そして早く良い伴侶を得て明るい家庭を築くことである。人生を一生懸命生きて「これは自分がやった」と言えるよう努力を重ねていただきたい。

昨年結婚式に招待してくれた卒業生は、卒業旅行先から両親に宛てた葉書に「お父さん、お母さん、ありがとうございました」と書いた。「面と向かつては何も言わないのに」と、その葉書を宝物のように見せて下さった時のお母さんのお顔が忘れられない。親しき仲にも礼儀あり、相手に通じるようにお礼を言うのが社会人のマナーの第一歩である。

景気が上向いたと政府がようやく認定、長い不況下で苦勞された諸君の前途は明るくなった。これからも生涯学習を忘れずに健闘されることを祈念して結びとする。

＊神馬教授は2期8年間、学長の職にありましたが、昨年12月に任期満了しました。

情報工学科

大学院工学研究科修了生

●博士前期課程

【機械工学専攻】

【システム工学専攻】

【電気工学専攻】

【情報工学専攻】

【建築学専攻】

●博士後期課程

【機械工学専攻】

【電気工学専攻】

【建築学専攻】

【システム工学専攻】

【情報工学専攻】

◎学位記授与式

3月20日(土)

受賞

鈴木君と宮崎君が
新進賞受賞



鈴木一弘君

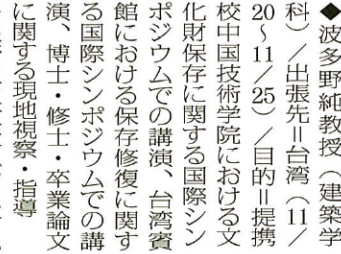
機械工学科4年で梅崎研究室に所属する鈴木一弘君（東京工業高校出身）と宮崎宏君（秩父農工高校出身）が、第35回応力・ひずみ測定と強度評価シンポジウムにおける発表で各々新進賞を受賞した。発表テーマは鈴木君が「電子スベック干渉法による部分圧縮負荷を受ける幽モデルの変形測定」、宮崎君が「デジタル

平成16年度日本工業大学
天満宮例祭が、2月21日
(土)午前11時から社前に
て執り行われた。

握手を交す学長（左）と李教授

学生の修了式が学友会館ホールで行われた。修了者は中国45名、台湾1名、カナダ1名、タイ1名、バングレンデシュ9名の計57名である。

彼らは今後、本学または他
 大学等への進学も決まって
 おり、新たな希望を胸に修
 了式を後にした。将来は、
 日本で学んだ知識を活かし
 母国と日本の友好の掛け橋
 となることを期待している。



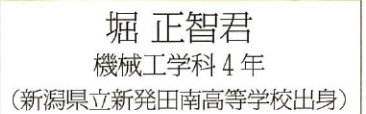
科)／出張先＝台湾(11/20
11/25)／目的＝提携校
中国技術学院における文化
財保存に関する国際シンポ
ジウムでの講演、台湾賓館
における保存修復に関する
国際シンポジウムでの講演

8) 目的：リライタブル
新材料調査・打合わせおよ
びカメラ・オブスキュラ調
査

8) 目的：リライタブル
新材料調査・打合わせおよ
びカメラ・オブスキュラ調
査

機械工学科棟の歯車の

柱を抜ける階のロビーに入ると左手には、ひととき
わ目立つ「ミニ旋盤」が
展示されている。これは
機械工学科四年の堀正智
（ほりまさとも）君が作
ったカレッジマイスター
の集大成である。



堀 正智君
機械工学科4年
(新潟県立新発田南高等学校出身)

先生方の指導と協力も、無事に完成させることができて、とても感謝している」と語ってくれた。

「今では、図面があれば、大抵のものは自分でできる技術と自信が身についた」と話す彼も卒業生である。この4月からは生産管理の仕事について話している。

◆石川孝教授（情報工学科）／出張先＝台湾（11／14～11／16）／目的＝高苑技術学院創立14周年式典での講演

◆横谷真一郎教授（機械工
学）／出張先「豪州
（12／7・12／14）」／目
的「プロセス産業における
流体コンピュータシミュレ
ーションに関する国際会議
での招待講演」

◆神野健哉助教授（電気電
工）／出張先「米国

に残る大切な保管すべきものを財産にして、未来に向かい進んで下さい。そして今度会う時にも、今日のような輝かしい笑顔で会えると思います。大学はいつでも諸君を待っています。(F)

情報工学科の磯野春雄教授が、第10回国際ディスプレイワークショップにおいて、「ハガキに印刷された文字の読み易さに及ぼすコントラストと反射率の影響」の論文で「優秀ポスター論文賞」を受賞した。

同研究は、最先端の研究テーマである「電子ペーパー」に対する基礎研究の環境として実施されたもので、読み易く、長時間読んでも目が疲れない為には、何が重要か、人間工学的に必要な十分条件を明示した。この点が、今後の電子ペーパーの開発に大きく寄与すると評価されたものである。

「機械工学の理論」を学
びたい、「実践的なもの
づくり」を身に付けたい
という学生のために、平
成11年度に特別に開設
された制度である。昨年
(平成14年度)には第
一期として2名が認定さ

位と実技科目6単位(カレッジマイスター演習)を修得したうえで、一つの機械類を製作し完成させなければならぬ。カレッジマイスターでは、実技内容により機械加工コース、型技術コース、

大学入学時にカレッジ・マイスター制度を知り、「機械加工コース」でミニ旋盤を作ることを決意した。

この制度自体、開設されて間もなかったということもあり、教える教員側としても試行錯誤を繰

分のミニ旋盤製作の全体像が具体的なものになってきたと当時を振り返る

ミニ旋盤製作過程において、各パーツの軸と軸受け（雄と雌）が合わずにそのたびに作り直し苦労したが、出来栄えとし

なお、平成16年3月20日（土）の第33期学位記授与式に於いて、カレッジ・マイスター認定証と賞状が授与される。

日本工業大学を巣立つ後も、感性豊かなものづくりに期待したい。

(11/15~11/24)／目的
 のISAT2003にて発表等
 ◆小林哲二教授(情報工学
 科)／出張先：米国(11/
 16~11/22)／目的：IS
 CIT2003国際会議に論文発
 表および座長
 ◆渡辺勝彦教授(建築学

(12/9)(12/14)／目
 的=2004 RISP International
 Workshop on Nonlinear
 Circuits and Signal Processing
 (NCSP '04) 現地打合わせ
 ◆星野坦之教授(システム
 工学科)／出張先IIイギリ
 ス・ポーツ(1/2)1/

【訂正】
力ある玩具の発想と開発」の記事見出しに誤りがありました。お詫びして訂正致します。

(正) 日本玩具文化財団 評議員 古川幸雄
(誤) 日本玩具文化財団 取締役 石井幸雄

◆環境配慮の観点から再生紙を使用しております